

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度が高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は、それ程行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	昨年同様、できるだけ学生と会話する時間を取るよう努めた結果が、アンケート調査の点数に表れていると思われる。学生による自由記述も、非常に肯定的なもののばかりである。「質問を予習の紙に書けるし、次回必ず答えてくださるので、あやふやな部分も皆で確認できました」というコメントに見られるように、学生の理解度の把握と、それへの適切な対応は今後も継続していきたいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価していいと考えている。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習 I	2	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業である。1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、学生の達成度・満足度の高い授業であったと判断される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、「1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験する」という授業のデザイン・運営は、内容的妥当性が高かったと判断できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価され ると考えられる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価 されるところで、来年度も、受講生の数が増えることが予想されるので、授業の デザイン・運営をさらに工夫していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-ray再生装置の音声小さく、うまく学習ができなかった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本年度より試験問題の形式を穴埋め及び択一問題としたために、学修の成果がダイレクトにポイントとして出るようになった。英語学科の平均点は58.56であり、全学平均の65.20より6.64ポイント低い。これは英語学科の履修生の意欲の問題ではないだろうかと推察する。 ②到達度自己評価の「まったくそうでないと思う」「少しそうでないと思う」に数人おり、殊に「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」に3人いるのが気になる。なぜならば行動規範についての講義を入れているにもかかわらずそのような数値が出たからだ。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程なので全員が免許状取得のために履修している。カリキュラム上問題はない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は各項目の平均値が3.1から3.3であり、前年度より0.7～0.8ポイント大幅に落ちた。理由は全く分からない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の満足度が低下したのが気になる。講義は微々たるものではあるが毎年改善を加えているので、学生の質が変わったのか、そこがわからない。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。特に資源が豊富にあるわけでないわが国では「教育は国家100年の計」とはよく言われてきた言葉である。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むようにそして明日の子どもたちの心理に訴えかけよう教師になれるように学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。試験結果を見てみると、しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。取り組んでくれた学生に感謝したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を具体的にシラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。毎授業の終了時点で回収する感想と質問のコメントにもよくあらわれていた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「映像の力は大きい」と再認識している。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に 毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ毎年のことであるが学生らの意見の中には出来るだけ授 業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法をさらに試みてみたいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体现している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学 習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。対話型の講義を今年も模索したい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシート内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上10名(※有資格者)中7名であり、そのうち80点以上は4名であった。また、到達度自己評価においては、すべての項目で平均値が4.0を超えており、特に(2)(3)(6)(10)の項目では平均値が4.6と高かった。したがって、態度面及び全体としては目標を「達成した」と判断した。ただし、知識理解においては、試験、各授業時のノート、振り返りシートなどの記述内容から「やや達成」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、英語科教諭をめざす学生にとって、学級経営や生徒指導、道徳教育と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目「職業選択の参考になった」の数値が高い点や自由記述の内容などから、内容的な妥当性は高いと判断できる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目の(3)(5)の評価が比較的高かったが、特に(5)の学生からの質問に答えたり、考察に助言をしたりする点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、自由記述にもあるように、参加型の授業づくりについては、今後工夫改善していく必要がある点だと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	将来、中学・高校の学級担任をする可能性のある学生であるため、学級経営との関連や教科指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体を俯瞰しつつ、各内容の詳細について考察したため、再確認したり繰り返し解説したりするなどの時間が必要であった。そのため、指導案作成などの演習やグループでの話し合いに費やす時間が十分とは言い難かった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても重点化を図るなど、今後も工夫改善を図っていく必要があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②模擬授業のための教材を一つに統一し、一コマに1グループの模擬授業を入れることとしてじっくり模擬授業と相互批判ができるようにした。 ③模擬授業の総時間を増やしたが、1コマ1模擬授業にしたため模擬授業をできないグループができた。 ④評価シートを書かせ、相互批判を取り入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は72.00であり、全体の平均値79.22より7.22ポイント下回った。他学科に比して相当低い。その理由はわからないが教職に対する意欲が落ちているのかもしれない。 ②しかし、到達度の自己評価は全項目の中央値が3.0乃至3.5であり、全項目の平均は3.2～3.6であった。これは前年より高く、自己評価は高い。しかし、「少しそうでない」という項目に1～2名がおり、授業を理解していない学生もいるということになり、一抹の不安を感じる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程の科目なので問題はない。
--	--------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均値が3.0～3.7であり、中央値は3.0乃至4.0であつた。説明の理解しやすさで3名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を 目指して努力しなくてはなるまい。 ②配付資料がわかりにくかったという意見があり、レジュメの刷新を図りたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①模擬授業は同じ教材では飽きてくるようなので、複数の教材を扱わせたい。 ②準備時間にもう少し時間をかけたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語科教職課程の必修科目である。学生たちは、これまでの英語教科教育法Ⅰでの学びを活かし、知識の習得やミニ模擬授業に臨んだ。学生たちは各々事前に指定箇所の学習指導案や板書計画、配布資料等を作成し、模擬授業の準備に計画的に取り組んだ。学生らは授業中の発言なども多く求められるが、積極的に発言し授業に参加していた。 受講生のコメントとして、「模擬授業の個人のフィードバックの時に適切な指導をされて、次からどうすればよくなるかわかった」、「先生の適確な指示とアドバイスがすぐ自分の糧となりました。ありがとうございます!」、「きつかったけど、達成感のある授業でした。」「後期もがんばります」、「先生の授業で大学生活において初めて自分の中の教師になりたいという気持ちが大きくなりました」などの意見があり、模擬授業準備等で苦労した分、成長も大きい授業であったことがうかがえる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.6、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.8、「説明は理解しやすい物であった」は4.7、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.8と概ね良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.7、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.8、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.6、「職業選択の参考になった」は4.8と概ね良好であった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および教科指導技術の向上に尽力する。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅴ	4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語科教職課程の必修科目である。学生たちは、これまでの英語教科教育法Ⅰ～Ⅳでの学びを活かし、集大成としての模擬授業に臨んだ。学生たちは各々事前に指定箇所の学習指導案や板書計画、配布資料等を作成し、模擬授業の準備に計画的に取り組んだ。教職科目のみならず、大学生活におけるボランティア活動などでの学びも活かし、教育実習前の総仕上げとして積極的に授業に参加していた。 受講生のコメントとして、「すぐくためになる自分を成長させることのできる授業でした。教師を目指して頑張ります」、「とても学びの多い授業でした」などがあり、模擬授業等で苦労した分、成長も大きい授業であったことがうかがえる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.4、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.4、「説明は理解しやすい物であった」は4.7、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.5、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.7、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.8、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.8、「職業選択の参考になった」は4.5と概ね良好であった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および教科指導技術の向上に尽力する。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度は、3名が北九州市の採用が決まり、1名は第一志望の母校の高校への就職が内定し、4名の学生が4月から教壇に立って英語を教えることとなる。今後も、教職を志望する学生を支援し、一人でも多くの学生の教職への夢が叶うよう指導を行っていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		どちらともいえない	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	英語学科平均67.8(昨年度平均65.8)。全学科平均70.9(昨年度平均72.4)。秀0、優4(23.5%)、良9(52.9%)、可2(11.8%)、不可2(11.8%)。 昨年度と比較すると平均点はやや上昇した。可と不可の合計が昨年度54%から23.6%と減少し、優良が増加した。 教材分析の深さや発問・指示の根拠など思考判断が要求される部分が弱いものも多いが、最低基準となる枠組みをきちんと作ることができる学生が増加している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 きちんと約束事を守った指導案というレベルの学生が増加したことは評価できる。最低基準には達しているが、より深い教材研究や授業方法への工夫などの点で課題があった。次年度は自分なりの工夫やオリジナリティなど魅力ある授業づくりに取り組むことができる学生を増やしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本年度は(1)指導案の最低基準をクリアできる学生が増加した(2)より深い教材分析や具体的な指導場面をイメージした指導過程の展開が弱かったという問題があり、引き続き(1)を全員がクリアできることが第一の課題である。その上で、自分が実際に授業を行う姿をイメージできるような指導案づくりができる工夫を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「資格に必要」100%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③昨年度は課題等を与えることなく学生の自主性に任せた対応であったため、学習量の評価が低い状況であった。今年度は初回の授業から課題を与え事前の学習準備を行い提出させたことにより、全体的に学習量を増やすことができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された		達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生10名中「かなり」「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「6名、2名、2名」「6名、2名、2名」「6名、2名、2名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「6名、2名、2名」「5名、3名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「6名、2名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、3名、2名」「5名、3名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ「5名、3名、2名」「6名、2名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足なけっとなった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「必修教科」9名60%、「資格に必要」40%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では学生が教員を目指すに当たり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、少数ではあるが、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見は「実体験話などがあり、すごくわかりやすくおもしろかったというものであった。また、グループ発表等の工夫についての評価があった。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については、今年度は課題を与える等を行ったため、事前に事例等を学習し授業に生かすことができ発表も多くなり授業が活性化された。 ④授業の中での情報機器や図書館の活用はなかったが、学生は事例等を調べるため個人での活用がなされたものとする。今年度は学生のグループ発表等で主体的に活動するような授業を増やすことができた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。特に数名ではあるが「英語教師になりたい」と教職を希望する学生が現れたことが成果である。 来年度の教員採用試験にチャレンジし現役での合格者が出ることを期待している。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	3・4	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語表現と一口に言っても、英語学科における日本語表現の講義の場合、特に気をつけているのは日本文化と日本語の関係性を基軸にしながら理解することである。美しい日本語のルーツを学び、日本語の出来上がる歴史、背景をも鑑み、その上で、まず日本語を考えてみることから始めている。敬語がなぜ存在するのかというのもその一例である。学生はその講義を聴くたびに目から鱗、といった感想を寄せている。そして次の段階として、ようやく文章構成の技のマスターということになる。学生一人一人の補うべき点を注意し、実力アップするべくマンツーマン方式も講義の中に取り入れて指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	トータルしてみた場合、77パーセントあたりまで伸びていると思われる。学生に多少の学力の差があったものの、着実に要を抑えて理解できていることが認められた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容妥当性については90パーセントは活かされていると思われる。学生自身の理解度を見れば自ずと解るが、この講義を元に何かを表現することに楽しみを持ち始めていることが判明したので、ほぼ達成の域に入っていると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、やはり日本語表現の上達方法を鑑みても解るように積極的な取り組みが大切である。。そのためには自分の考えをしっかりと伝える・・・ しかし伝わらなければ意味がないのであって決して一人よがりにならないように基礎的な表現を地道に身に着けることから始めることが大切である。ただ講義と独習 とのちがいは、私が添削することに意義があると思っている。学生一人一人としっかり話し合い、教授の仕方を一人一人変えていくことに力を注いでいる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的には、最終講義までには、何とか全ての学生がまずまず達成できていると思われる。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	寺井 泰子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記演習	3・4	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3、4年生の英語学科の学生を対象としている科目であることから、簿記演習という科目内容についてイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。説明の際はなるべく身近な事柄から連想させるように説明をすることを心掛けた。今回の受講動機をみると「単位数を確保する」50%、「関心のある内容であった」31.3%となっており、「資格取得に必要である」18.8%であった。少数ではあるが、日商簿記検定試験の受験の意思が明確にある学生がいること、授業中の聞き取り調査では明確ではないが、将来的に日商簿記検定試験の試験の受験を考えてる学生が数名いることを確認したうえで日商簿記検定試験3級の資格取得についても視野に入れた授業計画とした。 ②単元のまとめ毎に確認テストをいれて、授業開始時に実施、学生の復習の意識を高め、学習状況を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77点であり、再試対象者は0名であった。理想的レベルに達していると判断できる学生は7名いた。 学生による授業評価において到達度自己評価の項目の平均値がすべて4以上ということもあり、教育目標はほぼ達成されたのではないかと考えている。しかし、学習量評価において、数値と授業内の提出課題の数値が大体一致するので授業以外の場面での意欲までは引き上げることができなかった、と捉えている。授業以外で図書館利用までむかなかったことなどを課題としてとらえ、授業内容の計画についてはさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生による授業評価によると、受講動機は「単位数を確保する」が50%となっており、最も高い数値を示していたが、学習到達度の自己評価の質問項目については「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」を評価した学生が多い(平均値4.2±2)ことから、内容的妥当性においては問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	情報利用の点において、シラバス記載を参考にしなかった学生の割合が高く(64.7%)、授業を進める中で学生の理解度に差があり授業の進行が少し難しいことがあった。そのため、授業計画を修正しながら進める必要もあった。できることならば「簿記基礎」の履修を済ませることを学生に促したい。全体的に授業中に実施する予定の内容復習の時間が想定より少なくなってしまったことは反省点である。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業過程を振り返ってみたとき、簿記基礎の内容の復習を加えたが、簿記演習で説明する内容を復習する時間が少なかった。次年度は予習課題の提示などで改善を図りたい。また、内容を吟味して絞り、整理を行うことで、学生が思考して問題を解く時間的余裕を作ること、課題を行う時間を設定したいと考えている。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心 I	3・4	前期	選択	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The first term course focused on providing Tourism Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 6 criteria passive participation 15%, class tasks 27%, class preparation 14%, Ccasswork 16%, active participation 3%, and a final test 25%). Student scores were well-balanced from the 60s through the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will include focused class preparation assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	I remain pleased that the two departments each have their own classes as it has improved the learning opportunities for all students.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習 I	3・4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本演習の最終目標は、通訳案内士の国家資格合格であり、この授業では、その試験における英語面の強化を図ることである。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	他の科目が週1回の授業で2単位であるのに対し、この講義では2単位なのに週2回授業がある。そのことも含め、また通訳案内士というハードルが高い試験を目指すことも合わせ、選択科目としてこの授業を履修した学生は非常に学習意欲のある学生たちであった。実際の通訳案内士に合格した学生が出ていないことから「達成された」ではなく、「やや達成された」と評価した。ただ最後の試験でほとんどの学生が好成績を収めるなど、英語力は確実に伸びた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「2達成度自己評価」のほとんどの欄において平均値が4.0～4.1である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	英語力において、英語学科と観光学科で歴然とした差があったので、英語力がない学生へどのようにフォローアップしていくかが課題である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	私自身、英語通訳のプロというわけでもないし、今年是指導者がいなかったので臨時のピンチヒッター的な教師として指導に当たったのであるが、通訳ガイド的な内容はもう一人の講師にお任せし、私の授業では経験も豊富な英語教育という面で、学生たちの英語力の養成に当たった。学生たちは国家試験の通訳士を目指すのには、高度な英語能力が求められるのは必須であるとの認識から、意欲的に課題をこなし英語の学習を頑張ったという点においては有意義な時間を過ごしたことが評価できる。来年度は廃止科目である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習Ⅰ	3・4	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	通訳ガイドの仕事を紹介し、ガイドになるための技能を身に着けることを目的とした。学生の中には、一人通訳ガイドを視野に入れている学生がいたので、動機を大切にした。そのため日本の観光地を学習し、その説明が英語で流暢にできるように重点を置いて授業を行った。まず、テキストを予習し、日本文化や観光地の説明を理解してくる。それから要点を暗記し、発表させた。学生は、毎回よく予習をしてきた。授業評価でも、予習を必ずやった、学生がほとんどだった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、ほぼAが取れていた。分布もA判定が一番多かった。準備性は、ほぼ毎回しっかり予習をしていた。学習達成度の自己評価は、まずまず高かった。学習量も最低1時間から2時間までかけて予習していた。単語のテストの全体の平均値は、10点満点の8.7と非常に高く、毎回単語の勉強も行っていたことがうかがえる。毎回説明を暗記させて、発表させたので、技能面が著しく上達していくのが分かった。のんびりしかしゃべれなかった学生も、流暢に話せるようになった気がする。さらに図書館や、インターネットも使って、英語で自由発表も行ったので、観光地をガイドする気分も味わえ、情報利用の方法も身についたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	通訳ガイドになるための授業を想定したが、受講動機に通訳ガイドになりたい人が、ほとんどいなかった。けれども通訳ガイドがこんな仕事だ、と動機づけできたのではないと思う。学習達成度の自己評価も高く、充実感があつたと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	成績の平均値は、ほぼAが取れていた。分布もA判定が一番多かった。準備性は、ほぼ毎回しっかり予習をしていた。学習達成度の自己評価は、まずまず高かった。学習量も最低1時間から2時間までかけて予習していた。単語のテストの全体の平均値は、10点満点の8.7と非常に高く、毎回単語の勉強も行っていたことがうかがえる。毎回説明を暗記させて、発表させたので、技能面が著しく上達していくのが分かった。のんびりしかしゃべれなかった学生も、流暢に話せるようになった気がする。さらに図書館や、インターネットも使って、英語で自由発表も行ったので、観光地をガイドする気分も味わえ、情報利用の方法も身についたと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業は、通訳ガイドのまねごとをやって、体験をしてもらったので、目的にかなっていると思われる。この中から、通訳ガイドに興味を持った学生が多く出ることを、希望する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion I	3	前期	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Getting the students to think critically was the main aim of the course. The text, Think Smart, provided a good foundation for this with solid explanations and examples, both written and oral.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	A positive attitude was had by most of the students. Although the topics were quite challenging they usually rose up to it.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The targets of the course were not always met, due to the difficult nature of the materials. Expressing their opinions clearly with supporting ideas was a challenge.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	The pace of the course needed to be kept at a reduced pace to help comprehend the materials. This was a problem last year as well, but it seems to be working better now.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Depending on the students, the material for the course needs supplemental scaffolding. The pace seems to be alright and is adjustable, but it is something that needs to be considered carefully during the course.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion I	3	前期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This year we continued the task-based and critical thinking style course built around the textbook "Think Smart". This course was built around current and relevant topics and involved the students in reading, researching, thinking about, discussing, and presenting their findings. There was also a strong focus on developing critical thinking skills with a different skill being focused on in each unit.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This class functioned fairly well generally, and the students took part in all activities fully. Their presentations at the end of each unit revealed a strong depth of understanding of the issues they were researching. Their groupwork was well done, and they shared responsibility well. The only major issue was their reluctance to use English in group situations. This is an ongoing problem, but we need to find ways to resolve this issue.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1: Students were required to use the skills they had learned in Years 1 & 2, plus do adequate research for the unit topics. They handled this well. DP2: This area was as good as last year. They understood the roles that were required of them and were able to use their skills to achieve each unit's aims. DP3: When given a task, the students worked very well and achieved great results. They were always positive in class and this reflected in their work. DP5: Aside from the issues of not using English for group work, the students developed their general English skills well.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	For next year, we will continue what we started this year with the “Think Smart” textbook. From this year, we are using the same textbook for the entire year instead of just one semester. This is enabling us to spend more time on each topic and develop their research skills and groupwork skills more.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Likewise with last year, as parts of this class are self- and peer-evaluated, no great changes are anticipated. We do, however, need to provide the students with more robust tools to build their assessment around. Although they were provided with a grading rubric, this need to be further broken down so they can evaluate their own progress better. This can be achieved in consultation with the students.
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension I	4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focused on practical English communication opportunities. Weekly class discussions and presentations covered a wide range of contemporary issues. Newspaper articles, TED talks, short video clips and music lyrics were utilized to engage students and introduce new topics.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 6 criteria (passive participation 30%, active participation 7%, classwork 3%, presentations 20%, class tasks 20% and a final test 20%). Final grades ranged from the 60s to the 80s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were very interested in the topics and displayed the ability to share their thoughts and opinions. The skills being practiced were both practical and thought-provoking.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	Goals for next year include finding more multimedia avenues to present and enhance communication.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	I feel that the use of the active learning suite is a good match for this class and this should be continued in the future.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Academic English Writing	3・4	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ライティングテーマの選定を慎重に行い、学生達を書く意欲を保ちやすいように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	課題に最後までできちんと取り組んだので、一定の向上は認められる。しかし、英語で表現する以前に、論理的思考に不慣れであるため、論文に準拠した構成で文章を書くことに壁がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講者の習熟度に応じた調整が必要であるが、科目としては妥当である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	アカデミックライティングの構成や論理展開の修得を優先して授業をすべきなのか、基本的なライティング力の底上げを優先すべきなのか、迷うところである。この数年、前者を優先してきた。なぜならその部分は、大学に入って初めて学習する内容であり、大学で新しいことを学ぶという満足感にもつながるはずだからである。しかし、基礎的英作文能力が十分でないと、論理展開を自分で確認することも不安定なままになるので、判断が難しい。前者と後者の上手いバランスを考えながら進めて行きたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生のコメントに「とても興味深い内容だった」というコメントがあるものの、全体的にはきちんとしたアカデミックライティングを指導できる基礎力が不足していると感じた。来年度は「エッセーライティング」に科目名称が変わるので、アカデミックライティングに要求される文体や形式のハードルを少し下げ対応したい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語研究Ⅰ	3・4	前期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、応用時事英語からさらに発展させた授業という位置づけである。研究というタイトルが付与されている点を踏まえて、これまでの時事英語関連の授業において重視していた時事英単語を中心に習得するだけでなく、学習した内容について日本語および英語で意見や考えを発表し、それらを受講者全員で共有できる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、タームの中間で実施した中間試験の平均点が、30点満点中18.2で半分を少し上回る程度の結果となったことから、ターム期間中の教育目標としてはやや達成されなかった。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中15.1という平均値が出ている。これは昨年の10点からアップしている。その要因として、学生の大半が昨年度の時事英語入門からの継続受講であったため、クラスの進め方などに慣れ親しんでいたからと思われる。クラス全体の雰囲気は非常に良好で、内容に関連して自らの経験や考えなどを発表する者、それに対して別の意見を述べる受講生もいたりして、非常に生産的な授業であった。数値として満足のいく結果ではないが、クラスマネジメントに関しては、昨年度よりも改善したのではないかと考えている。筆記試験については、中間試験では30点満点中18.2、定期試験については50点満点で平均が24.2、いずれも半分をやや上回るか半分程度の結果となった。また全体の総合得点も昨年度の77.4から65.1と10ポイント以上下がった。授業で発表してそれなりの評価がなされているにもかかわらず、それが筆記試験の結果につながっていない点は、今後の大きな課題である。この最終結果を踏まえると、受講生の態度や学習姿勢は良好であった反面、試験の結果が昨年よりもダウンした点を踏まえて、教育目標はどちらともいえないという結論に至った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生がふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。今回の受講生は、昨年と比べると、受講態度や学習姿勢が極めて良好だったが、授業で習得した内容が筆記試験に結果として反映されていなかった。これが昨年度の受講生と対照的だった点である。昨年度のようにクラス全体を集中させる労苦はなかったものの、自宅学習を徹底させるなどのフォローアップが不足していたと考えている。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性はほぼ確保されていると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ターム期間中に小テストを昨年から中間試験のみの1回に変更したが、こちらが想定していた以上に正答率が低かった。定期試験についても、昨年と難易度は同一であるにもかかわらず、下がっている。以前実施していた小テスト形式に戻すことも検討している。また今後の課題として、試験前に復習の時間を意識して創出し、学習した内容の理解・定着強化を図ることもひとつの改善策と考えている。個別コメントに関しては、「世界で起きていることを分かりやすく、しかも英語を交えて説明してくれるのはとても嬉しかった。ニュースに目を向けることが多くなりました」「毎回課題があったので、緊張感を持って授業を受けることができました」「一番自分のためになる授業だったと思います」など非常に好意的な感想が書かれていた。担当者自身は毎回の授業で学生の反応がよかったので、手応えを感じていたが、それが最終的な数値で望ましい結果に至らなかった点が残念であり、授業運営において改善の余地がまだあると痛感している。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門および応用時事英語で学習した成果を発展的レベルにまで上げるという目標はおおむね達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、適宜復習する時間を設け、試験の高得点化を目指したい。くわえて、学生間の意見交換やペアワークなどのアクティビティをより多く取り入れ、日本語から英語へのスムーズな移行を経てからの自己発信を積極的にサポートできるような体制も今後構築していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用ビジネス英語	3・4	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまでの授業方針の継続として、ビジネス実務の現場を反映した英語を学習することに重点をおいた。今年は日本の企業研究(ケーススタディ)を主眼に、「ものづくり」に焦点を当てた英文テキストを採用した。「応用」という科目名にふさわしく、ものづくりの製品開発に関する英文を「深読み」することを意識した授業を展開した。また最新のビジネストrendやマーケティングが反映された実際の企業のケースなどを掲載した新聞記事なども援用しながら、ビジネスを多角的にとらえられるようにした。また、学習した成果が確実に定着しているかを数値的に確認するために、中間試験を実施した。出欠に関しては、これまでと同じく初回の授業で説明したうえで、無断欠席や遅刻をくり返すと、学習に著しく支障をきたすだけでなく、他の受講生との学習「格差」が広がるおそれがあるとして、15回すべて出席することを求めた。また、無断欠席や遅刻によって、前の週で獲得した貢献度(発表)による平常点が消滅するおそれもあるなど、平素の学習意欲や態度が成績評価に直結する点も再度周知徹底した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	はじめに、出席したうえでの授業貢献度(配点:20点)という項目を設定した。これは出席が大前提の評価項目だが、この点に関しては、大半の学生が積極的に発言を行った結果、非常に有効だった。受講人数が少ないことも奏功して、この項目の平均値は配点を超える24.6点だった。中間試験(配点:30点)に関しては、平均値が18.3という結果であった。定期試験(配点:50点)に関しては、学生間で得点格差が多少あったが、平均して正答率が7割程度だった(50点満点換算で平均値36.1)。これらの客観的なデータから判断して、教育目標は達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ビジネス英語においては、業種・職種にかかわらず共通して必要な単語が数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、などの項目において、全員が「そうだと思う」の項目を選択していることから、内容的に妥当であると考えられる。またビジネス英語そのものに関しては、自由記述の意見として、「毎授業、予習を頑張りました。単語力があがります」という記述があり、今年初めて採用した、教科書を使って英文を深く読む、という目標スタイルがある程度達成できたのではないかと考えている。学生は語彙力が絶対的に不足しているので、その点を彼女らが実感して達成感を得た点は非常に有効であった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	少人数のクラスだったが、受講生の学習意欲や姿勢が良かったので、授業を進めるうえで、確認や意見交換などコミュニケーションのやりとりを非常にスムーズにすすめることができた。授業の質評価におけるすべての項目で、全員が「そうだと思う」という評価を行っていた点からもそのように判断している。学習量の評価においても、全員が予習復習ができていた。学習の記録については、開講日に授業専用ノートを必ず準備し、単語の下調べなど予習の成果、英文の和訳などは、すべてノートに記録するように指導していたが、その点もきっちりできていた。その結果、全体の最終総合得点の平均値は100点中96.9という結果に至った。課題として読んでくる英文の量が多かったが、一人一人自覚をもって熱心に取り組んだ結果だと思う。彼女らの真摯な学習姿勢に担当者としてあらためて敬意を表したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	DP1知識理解に対する評価を全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標はおおむね達成できたと考えている。しかしながら、受講生は毎年変わるので、先期までの方法がそのまま有効に作用する保証はない。したがって、常に授業も進化・改善を図らなければならないと感じている。今後は試験的に開講の半ば(第7回もしくは第8回目の授業前後)で、ミッドターム・アンケートを実施し、学期後半の授業の進め方を改善することも検討したい。指名スタイルについては、おおむね評価が良好なので、指名の方法やルールづくりを明文化するなどして周知徹底を行い、学生の学修ニーズやモチベーションキープに結びつくような授業準備および運営を行ってきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅰ	3・4	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生にとっては初めて学ぶメソッドが多いので、初日の授業ではシラバスに沿ってクラスで取り組むアクティビティの説明を行った。特にリスニング力向上のための課題として、ディクテーションを毎週行う旨を伝えた。次に、通訳の体験をするために、自己紹介をしながら日英ペア通訳練習をおこなった。スピーカーと通訳者の両方の立場に立って語り、訳出する練習を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「自分なりの目標を達成した」は「わりに」が6割、「かなり」が4割であった。一方で「知識を新たに得た」「意欲を深めた」等においては、4割が「「わりに」で、6割が「かなり」と回答した。後半以降の授業内容はかなり難しくなったが、各自が積極的に下調べを行い、質疑応答やペア通訳を通して、訳出の精度とスピードを上げていった。今回は欠席者が例年以上に多く、授業の進行度合いを調整せねばならないことがあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。今期は難しい内容を自分なりに「咀嚼する力」と咀嚼した内容を「相手に伝える力」の向上を目指した。「意見をまとめる機会が作られていたか」の問いに関しては8割の受講生が「かなり」機会が与えられていたと回答した。英語を道具にして知識を身につける練習に重点を置いて授業を展開した。学生はこれに果敢に取り組んだ。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今期も、自宅での課題として毎週一つのディクテーションに取り組んだ。学生の出席回数により、当然のことながら習得度に差が生じた。出席回数の多い学生は丁寧に課題に取り組み、大変であったが手応えを感じたようである。数年前から取り組んでいる「実践的通訳訓練」を行うために、教材の締めくくりのアクティビティーとして「ペア通訳」練習を行った。今日学んだ内容と自分の知識や感想を織り交ぜて1～2分のスピーチを日本語で行い、それをペアの相手が英語に通訳する練習である。これは、学生にとっては大変な作業ではあるものの「相手に伝える力」を伸ばすよい機会であるため今期も挑戦した。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	音声面での取り組みでは英文暗唱を通して英語のリズム練習を徹底することができた。「咀嚼力」つまり行間を読み解き、展開を予測する能力の向上は、今後も大学生に挑戦し続けたい課題である。「意見をまとめ、交換する機会」をなるべく多く作り、それを自分の言葉で、説得力を持って表現できる力の獲得をこれからも目指していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英米文学研究	3・4	前期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①映像教材を媒体に、スクリーンプレイと原作の比較、フェミニズムの研究を行った。 ②授業の7回目に中間テストを期末テストと同じ成績の比重で行い、試験勉強を分割したことで、学生の学習意欲を喚起した。 ③毎回の授業でレポートを課し、自分の力で考える行動を促した。 ④ほとんどの学生にとって選択科目であったが、選択動機には回答者32名中、「関心のある内容である」9名、「単位数を確保する」18名とが多かった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価は全ての項目において平均値が平均3.6であったことから、昨年の4.0-4.2と比較し、満足度がかなり低下したものの、目標はやや達成したと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自由記述欄に「色々勉強になった」などと肯定的な意見が多かった。「英文学入門の時のように本文訳をしたかった」との意見が初めてあり、教員としては興味深かった。来年授業のどこかで小説版の一部を訳する活動などを取り入れてみたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	レポートの特性から図書館やネットでの検索を促すものではなかった ので、6図書館利用は図書館の利用は33名中(1)3名(2)3名(3)5名など、 意外にも授業以外にも自発的に学習したことが伺われ、近年の学生の 勉強熱心さに感心させられた。また毎回の配布資料に女性学の記事 を載せたが、学生は授業の合間に読み、熱心にコメントを記してい いた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今回は小説版の原作(和訳)を読む機会を作った。来年度はその機会 を増やしたり、(英文)に読解に挑戦したりもしてみたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	笹山 郁生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
統計学入門	3・4	前期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の選択授業であるが、授業内容は「統計学」であるため、日頃、英語を学んでいる受講生にはなじみの薄い内容であるとともに、基礎的知識についてもそれほど多くないものと考えられる。そのため、授業内容について受講生に親しみをもってもらったり、授業中分らないことがあった場合、まず受講生同士でその内容を気軽に確認し合うことができるよう、毎回、受講生を4名程度の小グループに分け、授業内容をグループ内で確認し合うことができるようなグループワークを取り入れた。また、授業内容をできるだけ理解してもらえよう、可能な限り、数式を用いずに説明することを心がけた。さらに、毎回、授業内容を復習するための課題を課すことによって、講義内容の定着を目指した。 授業は、まず講師が新しい内容について解説したあと、グループワークによって講師の話した内容を確認させた。その後、授業時間外学習として、当該授業日の内容に即した課題を各自で取り組み、翌週、講師が再度、前時の内容と課題の解き方について確認するというサイクルによって構成されていた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	達成されなかった		達成されなかった	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学期末に実施した試験の結果、知識を問う問題に対する平均正答率は61.5%であったのに対して、実際に数値を算出する問題の平均正答率は35.58%と大変低かった。この結果は、受講生が統計についての基礎的知識については、ある程度修得することができたのに対して、実際に統計を活用する技量はほとんど修得することができないままであったことを示している。 一方、試験の受験資格を有する受講生の毎週の授業課題の平均得点率は75.9%であり、ある程度の水準にあるものの、昨年度の受講生の84.4%という平均得点率と比較すると、若干低くなっていた。また、毎週の課題に関しては、内容について理解できていないまま、友人の解答を写して提出していたと思われる受講生が相当数いたため、実際にどの程度理解できていたのかについては判断しにくいところである。このことは、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか。」という授業評価の設問に対して、「0回」と回答した受講生が50%もいたことからもうかがえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の授業ではあるものの、その内容は「統計学」であり、他の授業と比較して、受講生にとってはなじみの薄い内容であったと思われる。しかしながら、統計学についての基礎知識は、英語学や英語教育学で卒業論文を執筆する際に必要となる知識・技能であるとともに、教職に就く場合にも、教育評価の基礎となる知識・技能であるために、基本的な内容については身につけておく必要があると考える。 受講生の受講動機を見ると、「資格取得に必要である」を選択していた受講生は回答者の23.1%、「関心のある内容である」を選択していた受講生は3.8%であったのに対して、「単位数を確保する」ことを目的としていた受講生が61.5%と、相当数存在した。このことから、本年度に関しては、本授業を真に必要として受講した受講生は少なかったものと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本授業では、授業内容を確実に理解していただくために、毎回の授業にグループワークを取り入れた。しかしながら、本年度はグループワークにまったく取り組んでいただけない受講生が相当数いたため、グループワークが成立しなかった。このことの一因としては、本授業がどのようなサイクルで構成されているのかについて、なぜグループワークを導入しているのか、また、グループワークに取り組むために必要な心構え等について、受講生に十分理解していただけなかったことがあげられる。たとえば、グループワークに入る前に、毎回、アイスブレイクとして自己紹介を実施したが、この自己紹介をすることによって、その後のグループワークにおいて、グループの他のメンバーと気楽に話すことができるような雰囲気を醸成することができるのであるが、そのことについて理解していただけなかったために、自己紹介をしっかりと実施していただけない場合が散見された。自己紹介をしっかりとしていなかったグループは、その後のグループワークにも真剣に取り組んでいただけないことがほとんどであったことから、アイスブレイクとしての自己紹介は重要であったと考える。したがって、来年度は、自己紹介にはどのような意義があるのかということについて、随時、説明するとともに、毎回、確実にグループワークに取り組んでいただくことができるように指導していきたい。 また、授業の最初に前時の内容の復習と課題の解き方を確認するための解説を実施することにより、授業内容の定着を目指したのだが、受講生のほとんどは復習の時間は授業ではないと考えておられたようで、この時間帯はほぼ私語の時間になっていた。講師が前時の内容を解説するという形をとってしまったため、受講生の私語が増えてしまったと思われるので、来年度は、復習の時間帯はグループワークを課すこととしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価の自己記述を見ると、本授業でグループワークを取り入れた理由について理解していただけなかった受講生が相当数いたものと考えられる。例年、本授業ではグループワークを積極的に取り入れてきたのだが、これまでは、グループワークを取り入れる理由について受講生に説明しなくても、実際にグループワークに取り組むうちに、その有効性を受講生自身が自然に理解することができていた。そのため、授業回を重ねるごとに、しっかりとしたグループワークができるようになっていた。 しかしながら、本年度は、最初からグループワークに参加していただけなかった受講生が複数名存在したことにより、グループワークが成立しなくなるとともに、グループの雰囲気も非常に悪くなり、他の受講生の学習意欲を低下させるといった悪影響を及ぼしていた。さらに例年だと、グループワークを行うことにより、グループでの協力態勢ができてきたため、パソコンを使った実習でも、分からないところは随時、受講生同士で確認しあっていたのだが、本年度は、そのような雰囲気も醸成されなかったため、パソコンを使った実習についても、成果は低かった。 これらのことから、来年度はまず受講生に、グループワークを取り入れる意義や、グループワークに取り組むために必要な心構えについて、随時、指導していくことが必要であると考え。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3・4	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①就職活動において、また就職後に必要な能力の一つがコミュニケーション能力。言葉にして相手に伝える能力である。グループ討議、模擬面接、企業研究の発表と学生に発表の場を多く与えることを重点として授業計画を立てた。 ②企業研究は、リクナビ・マイナビの使い方、ホームページの見方、考え方、また現代の企業の利益に繋がる知識としてユニバーサルデザイン・サービス、ダイバーシティ、ワークライフバランスの考え方を伝え、企業研究を深めるよう促した。 ③今年度の企業研究は前年度に比べ、業種が広がった。農協、工業系の企業、日本語学校(海外)、駐車場経営企業等、今まで西南女学院大学の学生が目を見向けなかった企業の発表があり、職業選択の幅を広げたものとする。 ④4年生の就活をテーマに質疑応答の時間を取った。4年生の経験は3年生の刺激になったものと理解している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①受講動機は「関心がある」が15%。昨年に比べ23.5%減。「単位数確保する」が95%であったが、到達自己目標は3.5点～3.8点。モチベーションを持って授業に参加してくれたものとする。 ②「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることが出来た」中央値より0.5点高いが他の項目は0.2点～0.4点低いため、学生それぞれの目標値を明確にしたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①学生評価アンケートに「就活に関する本を読んだ」就活の意識向上に繋がったものとする。 ②学生評価アンケート「すごくためになる、就職に役に立つと思う講義であったと思います。特にアサーティブコミュニケーションのところが勉強になりました」「話し合いが楽しかった」等の記述があり授業の内容は妥当と考える。 ③まとめ、以上から、授業の内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生評価アンケート「グループディスカッションをもっとしたかった」と記述。この意味はもっとグループディスカッションを深めたかったという意味と思われる。ブ レンストーミング、KJ法を90分行うのではなく、次年度は2コマで行うことを考慮したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①学生評価アンケート「忙しい」と記述。授業内容はレポートの提出。企業研究。発表と学生自身で調べなければならない内容も多いが、学生は十分期待に応えてく れたものとする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3・4	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は「ビジネス関連科目」に位置付けられている。受講動機においては「関心のある内容である」という項目が40.7%と相対的に高い選択率を示していることから授業への期待を窺うことができる。ただし、「単位数を確保する」という受講動機の選択率が66.7%と最も高いため、キャリア形成としての認識が全体的に低かったと想定される。毎回の授業においては観光文化学科と合同の授業であったため、レジュメを作成し、配付することで貿易の基本的な知識と流れを説明していった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DPの平均値が概ね3.8～3.9をマークしているが、どの項目も4.0を超えてはいない。ただし、授業アンケートでは「毎回の授業がとてもタメになるものだった」「内容は難しかったけど、わかりやすかった」などの自由記述があるため、一定の成果はあったものとする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP上の本科目の位置づけは、受講動機の値が概ね3.7～3.9を示していることから内容的妥当性はあると考える。またCPについても本科目は経営系科目の総仕上げ的性格を有していると考えられるため、内容的妥当性があるものとする。以上より本科目の内容的妥当性はあると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目は3年次に配当されているキャリア形成科目で2年次の学習を踏まえ発展的 内容を扱うことが予定されているため貿易論の授業をおこなったが学生にと って内容が難しかった点は否めない。今後の予定としては貿易論を扱うに してももう少し入門的な内容を扱うことを課題としたい。この点については 授業の質の評価において4.0を超えた項目が1つしかないことにも見て取れる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目はキャリア形成科目の総仕上げの性格が強いため本年度は貿易論を扱ったが、 また学生の本授業に対する関心も比較的高いことから次年度以降は今年 度の授業成果を踏まえ授業内容の一部変更を踏まえて検討したいと考えて いる。具体的には学生がより興味を持てるよう、モノだけでなくサービス も対象とした貿易論の展開、もしくはEコマースの進展といった分野につ いて検討したいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3・4	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. この授業は、航空業界、及び観光関連業界に直結した内容を身近に感じられるように講義を組立、どの様に役立たせるかを明確にした。また、就職に結びつくように実務経験を基に航空会社のビジネスにはどのようなものがあり、実際の様に遂行されているかを現実即して解説することにより航空業界への一層関心を持たせることが出来た。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・到達度自己評価より、まず、現実の事象を理解する視点、考え方を持てたと評価していること、また、様々な課題を検討する力を得ることが出来たと評価していることは、まさにこの授業の目指すところである。更には、もっと学びたいという意欲を持てたことは、これからの航空業界が欲している人材になると確信する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・これからグローバル企業を目指そうという強い意欲を持った学生に取っては、どのようなものに関心を持ち、どのように知識の習得を行うか、の方向付けが出来ると思われる。更にこの授業を通して国際感覚の養成にも対応できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・毎回、次の授業では何を行うかを明らかにしており事前学習がしやすい環境にした。また、航空業界への就職を目指す学生のために、過去に日本航空が実際に 行った面接時の質問事項を紹介し、就職に直結できる個人の力量としたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・航空会社に関心をもって授業に臨んでもらい、授業によって問題分析の力を養うことが出来たことは良かったと思う。航空機や空港業務に携わる社員のことは多々 目にすることがあり、そこで憧れの職業になるが、それ以外の業務に何があり、それぞれの部署とどのように関連付けられ企業の仕事として完成するか、実例を多く 取り入れ真の企業人の心構えを養いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小学校英語教育入門	3・4	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職関連教科であるが選択教科となっていることで、学生の想定する授業内容に開きがあると思われる。そのことは、受講動機において、「資格取得に必要である50%」と「単位数を確保する44.4%」がほぼ同数であることから予想できる。 ②そこで、授業内容のテーマを、「文部科学省によるコアカリキュラムの指導項目と照合させる」「新学習指導要領における改訂のポイントを丁寧に説明する」ことを配慮して選定し内容を決めることとした。 ③一方、教員を目指すことなく、本学科学生が今後「英語が堪能な人材」として小学生の英語教育に携わる可能性があることから、重要な教材の一つである「歌」について体験的に学ぶ機会を持てるよう毎授業の終わりに「A SONG FOR TODAY!」を設定した。これについては、学生の自由記述において「いろんな国の歌を学べて楽しかった」という声があり、継続したい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験(50点)＋提出課題・発表(50点)で最終成績を算出しているが、最終的な成績の平均値は、57.5点で、再試対象者は、7名であった。試験結果の平均値が27点、提出課題・発表の平均値が34点であった。このことから、各授業における課題はある程度達成しているが、学習内容が総合的な知識として定着するまでには至っていないと考えられる。学習量の評価においても、回答数22名のうち、18名が予習した、17名が復習したと答えていることからわかる。 ②学生の自己評価において、「DP1」の全項目について、半数が「まあまあそう・わりにそう・かなりそう」と回答しており、達成感を自覚できた学生と自覚できなかった学生がほぼ同数であったことから、見方は一致している。 ③本授業においては、アンケートによると学生の「図書館利用・データベース利用・インターネット利用」は少なかったとの結果があった。予習指示や課題内容において改善策を講じたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、教職関連教科であるが、「選択教科」であり、資格取得を直接目指していない学生が全受講者の3分の2を占めている。そのため、動機づけに苦慮する面はあるが、一方では、新学習指導要領において明記されているように、「英語の堪能な地域人材」として今後、本学科生が小学校英語教育に関わる可能性は極めて高いこと、学生も一定の成果を出していることから、内容的に妥当であると考え。 ②DP:行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価において、発表における達成度は比較的高く、学生の動機付けや発表力の発揮の面でも長所を伸ばす項目であると言える。評価場面(材料)の向上は今後も検討すべきであるが、内容的には妥当であったと言える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が平均値3.6で最も高かったが、最も低い3.4点で「授業中に自分の意見を まとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」 となっており、全項目が3.5点前後で平均的な評価となっている。これは、学生にとってそれぞれの項目について学生の印象が中庸であったと受け止め、一つひと つの学生を中心とした活動の目的や成果の明確化を検討する必要がある。また、話し合いにおいては、座席の工夫によりメンバーが変わるようにして、クラス全員と のコミュニケーション体験ができるようにしたい。 ②「小学生扱いされていやだった」との学生の声があったが、歌やゲームは小学生になったつもりで体験しながら学んでほしいとの思いがあった。この点について は、丁寧に説明をして理解を得られるようにしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教職関連科目であり、資格取得のための必修科目として受講している学生と、単位数確保のために受講している学生が混在して、内容に焦点を当てる上で難しさ があるが、文部科学省のコアカリキュラムに示された項目を中心として、小学生に英語を教える上で学ぶ必要のある内容を、来年度も精選して行っていきたい。 ただ、学生の受講動機とは関係なく、本授業を通して小学生への英語教育に理解を深める意義は周知のとおりであり、学生の意欲を高められるよう、授業進行、課 題内容を工夫したい。また、そのためにも、授業初回において、授業をうける上でのきまりや約束を明示して、学生と教師双方が相互理解のもと、授業を進められる ようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The focus of this seminar was on researching issues, presenting on them, and discussing them.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This is a great group of students, but were hampered this semester by lateness and absences... probably due to the early start time. While they did a reasonable job of presentations, their research was weak and follow up discussions almost non-existent.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As stated above, there were weaknesses in some areas, and we will be focusing on rectifying this in Semester 2.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Goals for upcoming classes will be related to improving discussion ability and research skill, plus pushing them to communicate in English more.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Challenges for the coming semester will involve motivating students to engage in significant amounts of independent research, formulating hypotheses around topics which are of relevance to them, followed by an extensive orientation of thesis writing practices. Hopefully this will in some ways prepare them for the rigors of writing their graduation thesis.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒論執筆に向けて「ロジカル・ライティング」をテーマとして設定した。演習形式で、研究のデザインの仕方・進め方などを具体的に学べるように指導した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度のかなり高い授業であったと判断される。ロジカル・ライティングという難し目の課題に取り組んだため、内容的に「難しい」と感じた学生もいたようなので、この点に関してはさらなるサポートを継続したい。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	ロジカル・ライティングという難し目の課題の内容的が「難しい」と感じた学生もいたようなので、この点に関してはさらなるサポートを継続したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、かなり高かったと考えられる。学生全員を同じように満足させる授業をデザイン・運営することは決して容易なことではないが、その実現を目指し努力を続けていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流の機会等を学生自らが体験出来る機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	発表や提出物について、全員が熱心に取り組み、高い意欲関心を持っていることがうかがわれた。また、それぞれの課題を適切にやり遂げ、思考判断、技術表現も十分身についたと思われる。 学習到達度の自己評価については、平均値が4.3から4.6で中央値が4.0、学生自らもある程度達成感を得られているものとする。 学習量の評価については、学生によって予復習の時間に大きな隔たりが見られる。個別に対応することを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、一、二名が「まあそうだと思う」または「わりに そうだと思う」と思うと答えた以外は、「かなりそうだと思う」と回答して いる。また、各項目についての平均値は4.3から4.6、中央値はすべて5.0であり、 授業の進め方についても概ね妥当であるとする。一方、来年度の卒業研 究に向けての基礎固めの課題が多かったためか、授業の課題以外に取 り組んだり、図書館等を利用した学生が少なかった。発展的な学修に 繋がる課題の設定などを後期から取り組みたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育目標については、概ね達成できていると思われるが、知識理解の 面では課題を残している。具体的には、テキストや配布資料の学修に とどまったり、知識理解の不十分さから討論の深まりに若干の問題が 見られる。知識理解を深めるための活動を授業の中で行ったり、そ れにふさわしい課題を設定したりして、授業の充実を図りたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミ活動では、挨拶やマナーなど基礎的な素養に加え、活動を通じた社会人基礎力の育成を目指した。ゼミ活動に加え、KANAME杯英語スピーチコンテストの実行委員スタッフとして大会運営に携わる中で、ひとり一人が仕事を分担し、責任感や協調性、リーダーシップなどを身につける機会とするよう心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.0、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.1、「説明は理解しやすい物であった」は4.1、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.1、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.1と概ね良好ではあるものの、課題も見られる。今年度初めて担当するゼミであることから、当初計画していた予定と学生たちとの希望とが完全には一致しておらず、実際の学生たちの意見を取り入れつつ計画修正しながらの実施となった。来年度はこれらを踏まえ、取り組みたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.3、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.3、「職業選択の参考になった」は4.3と概ね良好であった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの人間力、マナー力や社会人基礎力の育成に尽力する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	はい	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。前期の授業では、旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。また、毎週のチャペルの参加や、ミッションデーのレポート、ミッションデー後の教会訪問などを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れる体験の機会を促した。 毎回の授業の最後に記入するポートフォリオにおいて、その日の学びの確認を行っている他、チャペルについてもチャペルポートフォリオを作成し、積極的なチャペル参加とメッセージを聞く姿勢を促した。 今後は、さらに建学の精神の土台を日常的に習得していくため、予習・復習の課題を具体的に示していく工夫を行う予定である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.1ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は4.0ポイント、自分なりの目標達成は4.0ポイントであった。また、他の到達度自己評価も平均3.6であった。トータルの成績の平均値は約75%以上、チャペルの出席率約80%以上、教会訪問の出席率約85%以上とチャペルポートフォリオや教会訪問の感想などから、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学(新約聖書)の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義とディスカッションなどのアクティブラーニングの学びの他、チャペル出席、教会出席等を評価に組み入れ、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。 自由記述には、「紙芝居などがとてもわかりやすかった」との回答があり、引き続き慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れながら多角的に捉える視点を大切にしたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「チャペルポートフォリオ」を導入して、チャペルと本講義とのリンクを行なった。100%の提出があり、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要であるため、わかりやすい説明を心がけ、授業の質評価の平均値は4.0ポイントであった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.9ポイントであったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけでなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。 授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオに加え、チャペル出席を促す「チャペルポートフォリオ」を導入し、学生のチャペルへの積極的姿勢を伺う材料とした。これによって、前期のチャペルでの学びの全体像が見えるようになった。今後も、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「8,12,19」で95.1%であった。② 他の2学科との全体授業であったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「6,12,20」で92.7%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるよう、創設者等の先達者の学校墓地（西南の森）を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績で見ると、全員が標準的レベル以上であった。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「6,16,16」と「6,13,20」でそれぞれ92.7%と95.1%であった。レポートには、受講生が積極的に関連する事項を図書館やネットで調べ、順序良く書かれよう指示し、字数を満たしていないものや、内容が十分でないものには再提出を課しているが、単位取得の課題を充足しない受講生は、0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、＜知識＞＜理解＞ではそれぞれ「少し」「全く」の順に、「1.2」「1.1」7.3%と4.9%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞は否定的回答が7.3%と4.9%で一桁台であった。③ 以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見としては、出欠につきカードリーダーの使用の要望が2件あった。検討し、適切に対応したい。② 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「10,10,20」で97.6%で、否定的回答は1名であった。＜理解しやすい＞という項目では、「4,12,22」で92.7%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「6,12,22」で97.6%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「6,12,18」と87.8%であった。④ 今後のことであるが、この学生の授業評価を参考に、1) 今後も理解向上のために、レジメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 3学科全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にすることが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、改善に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナー I	1	前期	必修	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門科目の授業に関することだけでなく、学習全般で大切となる視点や心構えや、発表における他者への伝わり易さなどを重点的に指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が意欲的に個人発表に取り組み、聞く立場の時も、積極的に質問をするなど、活発な様子が見て取れた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当ではあるが、テキストが使いにくい面がある。テキストは全学的に共通のものを使うように促された経緯があるが、そのテキストを使っているのは英語学科だけのことである。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自分の発表分担を責任を持って満たす、という部分では、十分に実施できた。各自の発表が授業時間の大部分を占め、担当教員も複数であるので、講座を通じての目標を見失わないように留意したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度の進め方で特に問題はないが、テキストの選定を含め、改善を図ってゆきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。 受講の理由は必修科目であるためが96%、関心がある者が僅か4%であった。健康や生理学が基本となる学部で関心の程度が低いことは残念だ。 健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画ではテキスト等の予習復習範囲を明示し、テキストの内容を繰り返し読み込ませるよう促した。 出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは25名(61%)であった。 目標達成できたと答えた総数は38人中41名で高値を示した。 「知識が獲得できたと思う」は41人、「事象理解の視点を得た」と思う者は41名、「課題検討力」を得た者39名、「判断力を得た」40名、「学習意欲が得られた」40名、「必要技能を得た」34名、「表現力を向上できた」26名、「倫理規範獲得」36名、「職業選択の参考」17名と非常に高い自己評価を持っている。 欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、テキスト以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めたことから、内容的には栄養系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来るようになる。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、英語学科の学生に妥当な内容と考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が1名(52名中)と良い結果と考える。 舞授業の復習、興味関心調べをA4用紙にまとめ提出してもらったことがこのような結果に結びついたと考える。 シラバスを参考にしなかった者が12名(41名中)、授業計画を立てなかった者9名であったが、図書館、データベース、インターネットのいずれかの利用者は48名と大 多数であった。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤チームスポーツでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが口固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの口入れ替えを行い、できるだけ口多くの人とコミュニケーションをとることができるよう口口口口した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90点(SD6)であり、再試対象は1名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものが21名(23名中)と予想以上に多かった。 達成度に関する自己評価では目標達成できたと答えた総数は23人(23人中)で100%と高値を示した。 目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は23名、「事象理解の視点を得た」と思う者は23名、「課題検討力」を得たと答えた者21名、「判断力を得た」22名、「学習意欲が得られた」22名、「必要技能を得た」23名、「表現力の向上」22名、「倫理規範獲得」21名、「職業選択の参考」20名と高い自己評価を持たすことができた。欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的にであり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③受講動機で内容に関心がある学生が18.2%で、単位獲得目的の学生が40.9%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、英語学科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	各回の担当者が昨年度を振り返った上で、周到に準備をしたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「人文学全般」をカバーするオムニバス形式の授業であるが、学生達の視点からは、毎回異なるテーマについての話しでもあり、興味を持てた授業とあまりもてなかった授業内容の差が多少あるかもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	人文学部であるので、人文学入門は開講科目としてふさわしい。ただし、英語学科・観光文化学科のそれぞれの専門科目は、実技や演習に主眼を置くものも多く、他の開講科目の学びに直結すると学生が感じる部分は少ないかも知れない。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	各教員の担当経験が増していく毎に、授業の室は向上すると思われる。自分自身の授業については、昨年度よりかなり改善できたと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	8人の教員が、高校への出前授業や外部での講演のような感じで、ワンポイントレクチャーをしているような授業であると思われる。通常の授業とは少し異なった、入学したばかりの学生には「高校とは違う！」「大学で授業を受けている」と実感できる部分はあるかもしれない。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義を受講する学生の高校時代の生物選択は「生物基礎のみの履修」、「生物を履修」、「生物をほとんど習っていない学生」と様々であり、これらの履修状況の異なる学生に対して、高校生物の内容をカバーしながら、一般教養としての生物学について、わかりやすい授業を心がけながら授業準備を行った。また毎回、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	4名の受講生の成績は、「秀」あるいは「優」の成績であった。また授業中に提出してもらった「授業の感想」でも好意的な意見が大勢を占め、学生の到達度自己評価においても、全ての受講生が新たな知識を得ることができたと回答しており、教育目標としては大いに達成できたものと考え。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は高校で未履修部分の生物学の内容を網羅し、なおかつ一般教養として必要な生物学の知識を修得するという位置づけとなる。受講動機は全員の受講者が関心のある内容であると答え、更に到達度自己評価でも自分なりの目標を少しでも達成したと答えた受講者の全員を占めたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。「一般教養の選択科目」という位置づけからどうしても必須科目に比べると事前学習、事後学習などが後回しになってしまうものと理解はしているが、次年度はこの点について対応していきたいと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	事前学習・事後学習に関しては課題があるものの、教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも基礎科目としての役割を十分に達成していると思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	単位目的の受講生がほとんどではあったが、心理学に関心を持ってもらうためにも、心理学における各領域を説明するにあたって、人間関係や恋愛、消費行動といった身近な例をできるだけ多く挙げることを心掛けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回の授業で、講義内容の理解を問う小レポート課題を課したが、多くの受講生がしっかりと理解できていたことがうかがえる。とはいえ、学期末のテストの成績は全体的に低調であった。講義内で復習の重要性を繰り返し伝えたものの、実施した学生が多くはなかったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1名を除けば、講義の理解はおおむね達成できたのではないかと感じる。しかし、到達度を問うテストの結果は芳しくなかった。同時に受講していた観光学科の学生と比べて到達度自己評価が全体的に低かったが、小レポート及び小テストの成績に学科間の差異は殆どなかった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	合宿などのオフィシャルな都合で欠席する学生への対応が難しかった。何度注意しても私語をやめない学生がおり、そのために学生間で対立が生じたことがあった。部屋が暑いという意見があったが、こちらがエアコンのスイッチを入れても毎回消しに行く学生がおり、全員を満足させる空調は不可能である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度は昨年度と比べて多くの受講生が聴講したが、そのぶん昨年度は見られなかった講義中の私語や途中退室が散見された。こういった行為については来年度は厳しく接したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の51.4%を除いて、③「関心のある内容である」は48.6%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「85.3点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解、(DP-3)の意欲関心、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.8点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.2点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、数値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に 利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。また受講動機において、70%以上の学生が「関心のある内容である」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期的に行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出して後半に向けては皆が高い平均点を出せるようになった。到達度自己評価の多くの項目において、平均点も中央値も4.0以上であることから、教育目標は到達したと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。韓国語検定にチャレンジしようとする学生も多く、自発的な学習意欲を育てることができたと思っている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フランス語入門	2	前期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	志望動機は全体の59%が「関心のある内容である」と回答したことから、未知の語学であるフランス語に対する興味・関心・期待の高さが伺えた。この授業では、興味関心を持続させられるような、フランスの歴史や文化にかかわる映像を毎回視聴するよう準備した。教科書は「主体的に学びながら力をつける」ことを念頭に置いたものを新規採用し、ペアワークによってフランス語を知的に理解することを重視した。受講者数が外国語の授業としては比較的多い43人（観光文化学科と合わせて）で、各課の終わりに個別に指導する時間を確保できるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.4点（±50点）であり、5名を除いた者が標準的レベルに達した。21%はS、17%はA評価だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」に関しては66%だった。このことから学生の目標は「やや達成された」と思われる。またDP5「技能・表現」は56%という結果で、半数以上は技能や表現力を身に着けることができたと考えていることから「やや達成された」と判断する。DP1、DP5ともに「そうでないと思う」という回答は無かった。学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったのは79%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、どの項目も評価は比較的高かった（平均値は4.1から4.2）。自由記述には「実際にフランス語を話す機会がたくさんあって楽しかった」「説明が明確で分かりやすい」とあった。この授業は、内容的に妥当性があつたものと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業では毎回、ニュース映像や歴史文化に関する映像を視聴して感想を提出させたり、会話やコミュニケーションをとる時間を多く設けたりすることができた。また、課題となる練習問題を提出させることで個別指導ができた。一方、授業の課題以外に学習に取り組んだと回答した者はいなかった。自由記述に「必要なし」「時間がない」「他の教科の課題があったから」との回答がみられた。今後は、授業で学んだことに満足せず、教室外でも興味関心を持ってフランス語に接することができるよう、図書館やインターネットの利用を促したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	まずは自ら考えて問題解決するという授業を行った結果、各自の主体性、課題達成に向けて助け合う力、自分のことを表現する力をある程度身に着けることができた半期間だった。その一方で、学外でもフランス語やフランスの文化により親しみ、学びたいという意欲を高め、ツールとして使えることを体感できるよう、語学の魅力を伝えていかなければならないと感じている。今後もフランス語と「遠い言語」としない学習方法を模索していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細な説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えている。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度から新たに開講される科目であるため、手探りで講義の内容を準備した。受講動機を見ると「単位数を確保する」が最も多いが、「関心のある内容である」とする学生も44%と比較的多いことから、ある程度、学生のニーズに合った内容を準備できたと考えられる。準備に際しては、類似する科目と内容が重複しないように心がけ、必修科目である「キャリア開発」を補完するような内容となるよう考慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの結果で、「自分なりの目標を達成した」や「職業選択の参考になった」の項目において半数以上が4または5としていることから、学生にそれなりの意義がある内容だったと受け取ってもらえたようだ。ただし、学習量や図書館利用などの項目に関しては全体的に評価が低くなっており、学生の自主的な学びを引き出すまでには至らなかった。単位数の確保という目的で履修した学生が多く、専攻する学問に直結する内容の科目でもないためやむを得ない面もあるが、もう少し、主体性を促す努力をするべきだったかもしれない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「キャリア形成支援」というカテゴリに含まれる数少ない科目のひとつなので、単位数の取得を目的とした履修が多くなることはやむを得ないであろう。到達度自己評価の(4)から(7)の専門分野への寄与に関する項目についても、科目の性質上、評定が低いことは当然である。(1)(2)(10)の評定が悪くないことから、妥当な内容の講義を提供できたと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述の意見から、少人数での演習形式の授業をイメージして履修した学生が一定数いたことが伺える。初めて開講される科目であったので、履修者数の見当 が付かないまま講義が始まったが、蓋を開けてみれば履修者は100人を超えていた。また、履修者の多さに加えて、8回という限られた講義回数の科目でもあるた め、学生と相互作用を取り入れた形式にするのは難しかった。次年度以降は、履修者数にもよるが、学生と議論できるような進め方を検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は開講初年であったが、一定の評価得ることはできた。次年度以降は、キャリア支援という本科目の目的を踏まえ、学生がどのようなニーズを持っているの かをくみ取りながら、より充実した内容を考えたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践英語音声学 I	1	前期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学科1年生の必修科目である。音声学は、大学で初めて学ぶ学生がほとんどであると思われるため、わかりやすい授業を心掛けるとともに、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。 受講学生のコメントには「わかりやすくて楽しかった」との意見があり、学生たちは積極的に授業に参加していた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.4、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.4、「説明は理解しやすい物であった」は4.7、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.5、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.0と概ね良好であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および音声認識力の向上に尽力する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジション I	1	前期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高等学校までの履修科目や習熟の状況については、学生ごとに大きな隔たりがあるため、既習事項と思われるものについてもわかりやすく解説しながら授業を進めることを心がけたが、怪我の治療中であつたため、板書や新たな資料の作成が難しかったため、口頭での説明に頼らざるを得なかった。 ② 例年、受講動機については、「必修科目である」という項目以外に回答した学生は少数しかおらず、今回も同様であつた。できるだけ、この科目で学修することが、今後の専門科目を学修する上での基礎となることを折に触れ、具体例を挙げながら説明した。 ③ 予習の習慣がつくように、予習としてすべきことを明確に指示し、毎回予習してきたことについて確認する機会を設けた。 ④ 学生が復習をし、自分の学修の成果を確認できるように、毎時間前時の授業について的小テストを実施した。 ⑤ 小テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については解説するようにしたが、毎回実施することができなかった。 ⑥ これまでやっていた学修方法がうまくいかない点が見つかったので修正を試みたが、十分対応することができなかった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の評価の平均値は84.2点で、再試対象者は45名中2名であつた。ほとんどの学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいた。再試対象とならざるを得ない学生もいたが、例年より減少した。一方で、到達度自己評価については、「まあまあそうだと思う」が最も多く、これまで見られなかった「まったくそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生も若干おり、学生の状況に十分対応できなかったことが現れていると考える。授業の内容や方法について、検討したいと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で多くの学生が理想的なレベルの成績を収めていることから、内容的には妥当であるが、さらに発展的な内容の学修につなげていくことも考慮する必要があると考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であつたと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」について、1名が「全くそうでないと思う」7名が「少しそうでないと思う」と回答している。年度当初、小さなグループで話し合う活動を行っていたが、うまくいかない部分が見えたため改善を試みたが、十分な対応ができなかった。質問を受け付ける時間は、毎回十分にとっており、全体で質問しにくい学生がいることも考えて、机間巡視をして個別に対応できるようにしている。質問を受け付けそれに答える機会が作られていたかという問いに対して、例年はほとんどいない「全くそうではない」「少しそうではない」と回答した学生が若干いるのは、質問しにくい状況が授業中にあったのだと考えられるので改善したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が数名いたことから、全員に学習の習慣ができたとはいえない。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、課題を提出させたりするなど、学生が学修しやすいように、また一定の学習量を確保させるよう工夫しているが、例年に比べて十分な結果だったとはいえない。怪我の回復も進み、以前やっていたことも可能になるので、さらに改善に努めたい。また、テキストや授業の方法について、修正を検討したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習 I	1	前期	必修	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英検準2級、あるいは英検2級に合格できるように、実践問題の積み重ねに重点を置いた。またすでに英検2級に合格しているものに対しては、単語力の強化と、準1級の準備をモニタリング・指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者44名中、すでに英検2級に合格していたものが15名(→これらの学生は英検準1級の勉強を進めた)、講義期間中に初めて英検準2級、あるいは英検2級に合格した学生が12名であり、半分以上の学生が目標を達成した。合格率は、66%で、昨年は52%であった。到達度自己評価(2)(6)項目では平均値が3.9であった。次に高い項目は、3.8の(7)で一番低いのは3.2の(9)であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置付けからみた内容的妥当性・・・本科目は「英語スキル科目」であり入学したての学生が、初めて本格的に英語の資格試験合格へと進む橋渡しの科目である。学生は上記の項目で挙げたように、一定の割合で合格しており、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標からみた内容的妥当性・・・本科目では、知識理解に重点を置いたもので、合格率もさながら、半期で一冊の単語帳を終えるなど一定の成果を収めており、内容的には妥当であったと考える。③まとめ・・・以上から、内容妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	単語の習得ができたことと「説明のわかりやすさ」への満足の意見が目立 った。「面接」が難しかったとの感想も多かったので、来年度は面接の 時間を授業中にとりたい。（今年度は希望者に対して授業外の時間に対 応した。）
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「級別にクラスを作って欲しかった」との意見が印象的である。こ ちらとしてもレベルの違う学生を「英検演習Ⅰ」「英検演習Ⅱ」とい う二つのレベルでのみ分けるのは、難しく、しかも前者は全員が必修 であることから、再来年はできることなら、「英検演習Ⅰ」を2クラス に分けたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーション I	2	前期	選択	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of the class was to have students practice and perfect oral presentation skills and techniques. The focus was on having students build the content of their presentations, and to deliver them in a clear and rehearsed manner. I also worked on getting students to be more confident in their speaking ability. To this end, students were required to prepare a number of short presentations expressing their opinions on a variety of topics, and to deliver these presentations in groups or to the class.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Overall, students took part in the class actively, and made an effort to move away from reading their scripted material to delivering it in a more natural manner. Students were focused on the work in class, and in general completed the work required for the class in a timely manner. By the end of the course, the students had shown marked improvement in their confidence and demonstrated an ability to use the various phrases and expressions we had been focussing on in the class. For the A class (29 students), the average grade was 70 (sd = 5.5), while the B class (28 students) had an average grade of 81 (sd = 7.9).					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Due to problems with the assignment and scheduling of classes last year, I was given this class to teach at the last minute in place of another teacher. As he had already set the curriculum, etc, this meant that what I ended up having to do was quite different than what had been submitted by the teacher who had been expecting to teach the class. However, we finished all the material that I assigned, and it appeared to be helpful for the students. In general, the students were able to work at a good pace to complete the various short presentations they were expected to do. They demonstrated understanding of, and an ability to use, the target language and made an effort to improve their presentation skills.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	Nothing in particular here.
--	------------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	I will not be teaching this class in the foreseeable future, so nothing to add here.
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーション I	1	前期	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This year we started using a new textbook "Conversation in Class" which focuses nicely on communicative competence and provides many opportunities to talk with other students, which is central part of this course. We intend to have the students gain confidence in using the English that they have already studied. The students did well in both respects, which is an encouraging endorsement of the new book.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students did a great job. Everyone worked well, with a positive attitude. This is reflected in the large number of students with scores of A. Those who did not do so well were those whose attendance was less than perfect.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The students had very positive attitudes towards learning the material and they put lots of effort into it. This resulted in all targets being met.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	The materials this year were an improvement to those of previous years. They helped to improve the advancement of the students in respect to conversational ability. Topically, the material could offer more variety for the students to increase their motivation even more. The students could benefit from more diversity in topics, which could be added by the teacher in the future.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	In comparison to previous years this text provided more practical advice for improving conversation. The students did well. The course in general has improved with the changes, although there could be some further adjustments, as mentioned above.
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーション I	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "Conversations in Class" (Alma Publishing) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in two e-learning programmes: CHleru, for developing general skills, and our Moodle website for building general skills in writing and reading.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など		Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 77% to 91% with an average of 84.24% In CHleru e-Learning, all students except 2 reached their monthly targets of 300 miles . As usual, we also collaborated with the Extensive Reading course, working on vocabulary building together. For this we made use of the Quizlet app, and all students seem to be progressing well.				

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. Aside from one student (who never really started) there were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students in class 1A did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross. This will continue to be our focus in the coming years.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Our goals for the next academic year include assessing the current textbooks for both courses and deciding if our choices last year were appropriate. As our 1st-year courses are no longer linked to the courses taught in other departments, we have some autonomy in our choice.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Our assessment system continued to improve this year, and we were able to offer students real-time transparent information on their progress. We need to back this up with strategies students can use to improve their grades after reviewing their own assessment progress.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッション I	2	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Changes were made to the course from previous years. We moved to using a textbook that was more directly aimed at helping students develop discussion skills. This seemed to be a better choice than in the last few years, and provided a better framework from which the students could work on developing their discussion skills. Students completed the required work, and were able to work through the course fairly satisfactorily, but at a somewhat slow pace. However, they tended to have some problems with bringing basic materials such as notepaper or notebooks to class. Some of them tended to lack basic organisational skills.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. While the students made some effort to accomplish these outcomes, they did not really move beyond the basics. While all students passed the class, the grades given for the class were quite low, with an average of 64 (sd = 10, n = 14). Attendance was an issue for some students, with either regular lateness, or missing a substantial number of classes.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	A number of the students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. Some students did have a degree of difficulty in focusing on the course content, which led to a fairly slow level of progress. Overall though, once students were encouraged to not get distracted by their smartphones, and to complete the required work during class time, they made some progress, and seemed to enjoy the class, and taking part in English discussions.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	As well as trying to get the students to take part in discussion activities, we worked a lot on having students present their ideas in the form of short presentations. While the students needed quite a lot of support and time to prepare here, they were able to use the target language to present their opinions in a coherent, if perhaps somewhat basic, fashion.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Need to push students to move beyond the basics. Make sure the students are clear on what is expected, and the level of performance they need to reach to be able to achieve a high grade. More scaffolding and practice of the key language patterns they need to be able to express their opinions, and move beyond a basic level. Students also need to be reminded of the need to bring such items as paper and pens to the class.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッション I	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The main aim of the course was to introduce the students to discussion strategies and expressions for a variety of topics. The text Impact Issues has numerous topics that are introduced by way of presentations, speeches and conversations. Getting the students to discuss topics at a more indepth level using these varied ways was something we hoped to achieve with this course.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students participated positively to the course and the materials. Many had problems developing their ideas to a deeper level with their current skills. The wide range of scores reflected their efforts and participation in the discussions.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Although preparation for the classes could at times have been better, their work was sufficient to meet the targets of the curriculum.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Generally, the course was successful in meeting its aims. Apart from those students who attended irregularly and those who didn't participate fully, their work and effort was rewarded. Certain topics were more challenging more from the fact that they had little knowledge of the topic, rather than their ability to hold discussions. This would be difficult to correct, other than to perhaps provide a bit more background on the topics beforehand.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	The course was successful and concluded without any serious problems to speak of. As mentioned above, there may be some merit to providing the students with a bit more background to certain topics before entering discussions with classmates.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語ディスカッション I	2	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into discussion and presentation based learning. By listening and reading about relevant social issues, students practiced intermediate to high level language comprehension. Students also learned to formulate and express individual opinions, while at the same time learning to positively respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. After extensive textbook related activities and discussion of the issue, students were encouraged to prepare and present on the current topic in front of the class.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 10%, active participation 20%, homework and presentations 30%, quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 80-90% range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Students expressed interest in hearing ideas from the teachers cultural perspective, so more time could be allotted to giving this kind of teaching input in the future.
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Practical instruction concerning information literacy and research skills would be of practical benefit to students when preparing for presentations.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディング I	1	前期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	I only taught this class for one semester because of an oversight which added my name to the MEXT roster. Because of that, I followed the system the usual teacher had set up so as not to disrupt his system – which has worked well to date. Students spent a lot of time reading and were then required to take tests using our Moodle Reader sysatem.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students who applied themselves to their reading – particularly outside of class – achieved good results and were able to build vocabulary and comprehension as well as increase reading speed. For those students who couldn't (or wouldn't) do the required reading, there was a corresponding drop in achievement.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1 showed some weakness as some students were unable to keep up with the readings and homework, but overall, the class worked well. This also led to the lower rating for DP5. However, this did not apply to every student, and most other areas were ok.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	This is not my course, so I'm not in a position to make any changes. However, I have once again recommended to the teacher that he implement more skill-building activities for those students who are having problems in classes.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Assessment is strongly built around performance and task-completion, and the results are made known to the students every week. This is an open and transparent system that works well.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングⅢ	2	前期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is designed as a follow on from Reading I and II, with a slight shift from focusing only on Extensive Reading to moving towards Intensive Reading as well. Students were exposed to a wide range of material which they had to read and analyse, then complete a number of exercises. We also included focused activities in CH1er.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	As levels ranged widely within the class – as all 2nd-year students were involved – there were varied degrees of completion and understanding. However, as the material was all online and largely self-paced, they were able to find material at their level and work on that.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Generally all DP areas were achieved, though for some students, lack of skills and knowledge in DP1 hampered their efforts. However, all student gave of their best so it was felt that targets were achieved.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	As I will not be teaching this class next year, it will not be up to me to implement any changes. However, I would recommend splitting the class in to two classes (A and B) so that material can be found that suits student levels better.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Nothing in particular, apart from redefining objectives that fit student levels more. One of the issues this year was that the class is a “one size fits all” format with all students wrking on the same material. However, as much of the work is online, this will enable a programme to be developed where students can work on material that fits their needs and abilities more.
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学でのこの授業も5年目を迎え、ようやく受講学生の英語力や知的好奇心を把握することができるようになり、それを元に、受講者にとって具体例の提示などに工夫をこらし、興味深い授業になるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回提出させるリアクションペーパーには、ほぼ全員がぎっしりと授業内容のまとめや、感想を書き綴った。学生に取ってはリアクションペーパーは、手間のかかる作業ではあるが、「講義のあとに授業内容を振り返ることで、自分の頭の整理に役立つ」という積極的な意見も混じるようになり、十分な手応えを感じた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語学科の開講科目としては、全ての基礎となる科目である。基本的英語学・言語学の分野に触れることは、英会話学校に通うなどのスキル重視の運用力養成と、一線を画する重要な部分である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	過去4年間、毎年工夫を重ねてきた結果が製菓として現れた今学期の授業であった。今後もさらに改善してゆきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	十分達成したと考える。
------------------------------	--------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライティング基礎	2	前期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教科書の展開にあわせて授業を進めたが、理解の確認のために、e-learning教材を併用した。その教材の中身は前年度中から準備した、使用教科書に準拠したものである。これにより学習内容の定着に努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回の課題はきちんと提出され、適宜質問も出され、理解を深めながら授業が進んでいることを実感した。ただ、型にはめた授業内容が多く、自由に書かせる部分が少なかったことに、多少の物足りなさを感じた学生もいたようだ。学生間の英語力の差もあり、難しい部分である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	基本的な英文を書く力を習得することは、英語力向上の基礎であり、1年次に文法を復習したあとに、2年生でライティング基礎が位置づけられていることは、妥当である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	進め方の基本はこのままで良いと思っている。
---	------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね順調である。
------------------------------	-----------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ライティング基礎	2	前期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For basic writing the course had two main goals: the review of basic grammar, and the introduction of writing structures. With the grammar review we looked at the main grammar points that form the basis of writing. With writing structures we started with sentence structures and then on to paragraph structures, in preparation of the paragraph writing course in the second semester.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された			やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	In general the students were adept at the basic skills. Their attitude was good and work progressed smoothly. As the difficulty of the material increased there were some issues to resolve, but that is to be expected.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The targets of DP and CP were generally speaking met. The gradual increase in difficulty began to show on some students. Work was completed by most in a timely manner, although the paragraph structure introduction did pose some problems across the board.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Providing more time to introduce paragraphs has been a positive change to the course. More focus on the basics has helped to bring the overall abilities of the students to a higher level. The second semester provides more focus on paragraphs, so that should help the students who struggled with the paragraph material in this course.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	The course as it stands now works well. There weren't any serious problems that need to be addressed, other than individual cases where students didn't achieve good scores for reasons outside of this course.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学 I	2	前期	必修	はい	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、そのような中文学の知識や楽しさを教授できるように工夫している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今回の授業アンケートの自由記述では、英文学に対し、「おもしろい」「楽しかった」「さらに興味が持てた」など肯定的な意見が多かったので、英語文学の導入の授業としては、良かったと思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「授業の質評価」は(1)4.1, (2)4.2, (3)3.9, (4)3.6, (5)3.6であった。(4)(5)が低評価となっているが、授業の最初に行う確認問題が(4)(5)を表現する場であったが、うまく活用されなかったということであろうか。学生は毎回たくさんの書き込みを行ってくれたのであるが。レポートがあったのにもかかわらず、図書館を利用した学生がわずか12名(48名中)であったのは残念である。しかしながら、図書館で本を借りなければ、行えないレポートであるので、学生の自覚不足による回答かもしれない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業では、文学＋映像資料との併用に対する肯定的な意見が多かった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この授業を始めて、もう数年が経ち、授業内容は成熟期にさしかかると 思えるが、文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員 という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。 そこで私自身も教育者として、その内容がもっと深化できるように、 学会や研究会にもっと参加したり、研究論文を書いてみたいと思う。 近年中に科研にも応募したい。そして次年度以降その研究の内容を 授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと 思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディア英語 I	1	前期	必修	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This is the first media class that the students experience, and most of the course is taken up with working on the CHieru e-learning system. Each week, they were given goals to achieve and specific items to work on. There was also regular testing using TOEIC and TOEFL style mini-tests. In addition, we worked on a number of other online activities such as vocabulary learning and listening skills.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Within the target of "600 Chieru Miles" every month, most students achieved this or came close to it. There were no big problems with work being completed or attendance being unacceptable. Grades ranged from 76% to 96% with an average grade of 84.98%					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All DP areas were achieved. Students worked consistently well in this class, and what couldn't be completed in class was completed outside class.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	I don't foresee any largescale changes to this class for next year as its primary goal is to get students accustomed to using the CHleru system on a regular basis. This was achieved. I will be offering more chances to complete other supplementary material and activities to broaden the scope of the class, plus will be reformatting the class sets of learning modules in order to get a more balanced group of materials to focus on in each class.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Focus for the coming year will be on refining the work they do in CHleru, changing it from a race to complete miles into a targeted study plan which will focus on their weaknesses and enable them to gain practice where they need it most. Also, rather than looking at a monthly target, a more continuous study model will be enabled so that they are completing work on a weekly basis. This "little and often" approach should lead to a gain in knowledge and basic skills.
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーション I	2	前期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「異文化間コミュニケーション I」という授業は、選択であるものの、多数の履修生を毎年有する科目である。その一方で、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述から、達成度・満足度が高かった授業であったと判断される。昨年度は、到達度自己評価で「まったくそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名ずつだったのであるが、今年度は肯定的な結果のみであった。特に自由記述の内容が非常に肯定的なものばかりであったことは、授業のデザイン・運営・実施がスムーズに行なったことの表れだと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、問題がないと思われる。学習者のアクティブ・ラーニングを引き出す授業をめざして、何ができるのか／何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本授業を担当することになって7年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は向上してきていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エリア・スタディ I	2	前期	選択	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The primary aim of this course was to have the students gain a better understanding of the regions in the world. It was hoped that the students would do research on the various regions and to share their findings with classmates via discussions and presentations.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Due to the large number of students in the class it was difficult to ensure that everyone was on task. There were several instances where students were not participating to the levels expected. Those who put the most effort in were able to reap the benefits of the course, while those who tried to get away with little work got little in return, resulting in the wide range of scores and numerous failures.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As in the range of scores that were given, so are the achievements of the targets in the class. Those who put in more effort and participation met the targets, while those who didn't did not. Though the course centered on preparing for class, there were not that many who noted that in their feedback.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The nature of the course required that students be more proactive. This, however, did not work out to the degree required. And although a lot of the course was centered on students researching about different places and presenting about their findings, there were many that did not do a very thorough job of it, which may need to be addressed for the next time. There were positive comments about the course, but I felt that much more could have been done on the part of the students.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	The course got off to a rocky start as the classroom was filled up to maximum, making it difficult to proceed with the kind of course that was initially planned. Overcoming this logistical problem remained difficult till the end. Another problem that cropped up was the lack of preparation by the students. Even though it was required to come to class with researched materials for class participation, many were unprepared, which resulted in classroom management problems. It is necessary to take these points into consideration for the next year.
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目においては毎回レジュメを作成、配付し、小テストも全部で10回ほどおこなうなど知識の習得と理解の定着を図った。しかし、観光文化学科には日本経済入門が1年次に配当されており、経済学の素養が段階的に身に付けられるようになっているものの、英語学科の1年次には経済系科目は全く配当されていない。この点のみならず受講動機においても「単位数を確保する」という選択率が55.9%と最も高かったことも、観光文化学科との間に授業評価においての若干の差異の一つの要因となったのではないかと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の平均値が3.4～3.8をマークしており、やや達成されたと考えられる。ただし、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業選択の参考になった」などの項目はそれぞれ3.4という平均値となっているため、他の項目に比べ達成度が若干劣ると言わざるを得ない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	前述したようにDPの平均値は3.4～3.8をマークしており、内容的妥当性については特に問題がないと思われる。ただし、CPについては当該科目は経済系科目の発展的内容であるため経済系科目の素養がいささか乏しい学生に対する授業としては内容的妥当性が全くないとは言えない。以上より、内容的妥当性については若干修正が必要かもしれない。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目は経済系科目の中でも発展的内容を取り扱ったため、授業の質の評価に関してはすべての項目で3.6～3.8という結果になった。英語学科と観光文化学科の合同授業となる場合にはより一層の工夫が必要であると感じた。また、本科目に関して図書館等の利用をしなかった学生が多く、この点は次年度以降の課題と考えている。具体的には随時課題を与え、学生が図書館を積極的に利用するような授業の工夫をしたいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は経済系科目の発展的内容を扱ったものであり、わかりやすくかつ丁寧な授業を心掛けたつもりであるが、授業の質の評価に関しては4.0以上の平均値をマークしていない。次年度以降、観光文化学科との合同授業となる場合には基礎的事項の確認に十分な時間を割き、授業の質の評価を全体的に上げていかなければならないと考えている。
-------------------------------	--